

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「GSグローバル環境リーダーズ」は、このたび、年2回決算コースにつきましても、第5期の決算、毎月決算コース（分配条件提示型）につきましても、第24期～第29期の決算を行いました。本ファンドは、日本を含む世界の株式を実質的な主要投資対象とし、主として環境問題の解決に関連する主要なテーマに沿うと考えられ、かつサステナブル投資と判断される企業の株式に投資することにより、環境へのポジティブかつ測定可能なインパクトの創出、ならびに信託財産の長期的な成長をめざして運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

#### 年2回決算コース

第5期末 (2024年2月13日)		第5期	
基準価額	9,600円	騰落率	-1.0%
純資産総額	29,235百万円	分配金合計	0円

#### 毎月決算コース (分配条件提示型)

第29期末 (2024年2月13日)		第24期～第29期	
基準価額	9,520円	騰落率	-1.0%
純資産総額	14,817百万円	分配金合計	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

本ファンドは、約款において運用報告書(全体版)を電子交付できる旨が定められております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

#### 〈閲覧方法〉

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「ファンド一覧」より本ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

# GS GLOBAL ENVIRONMENTAL LEADERS ecoWIN

## 交付運用報告書

## GSグローバル環境リーダーズ

### 愛称：ecoWIN

年2回決算コース  
毎月決算コース (分配条件提示型)  
追加型投信／内外／株式

年2回決算コース	第5期 (決算日2024年2月13日)
毎月決算コース (分配条件提示型)	第24期 (決算日2023年9月11日)
	第25期 (決算日2023年10月10日)
	第26期 (決算日2023年11月10日)
	第27期 (決算日2023年12月11日)
	第28期 (決算日2024年1月10日)
	第29期 (決算日2024年2月13日)

作成対象期間：2023年8月11日～2024年2月13日

### ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

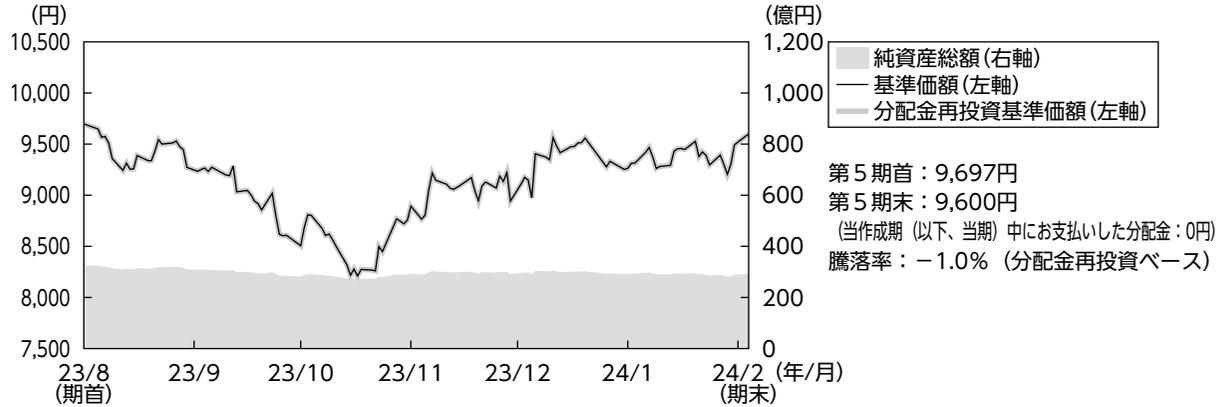
〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
お問合せ先：03-6437-6000 (代表)  
受付時間：営業日の午前9時～午後5時 | [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

## 運用経過

## ■ 基準価額等の推移について（2023年8月11日～2024年2月13日）

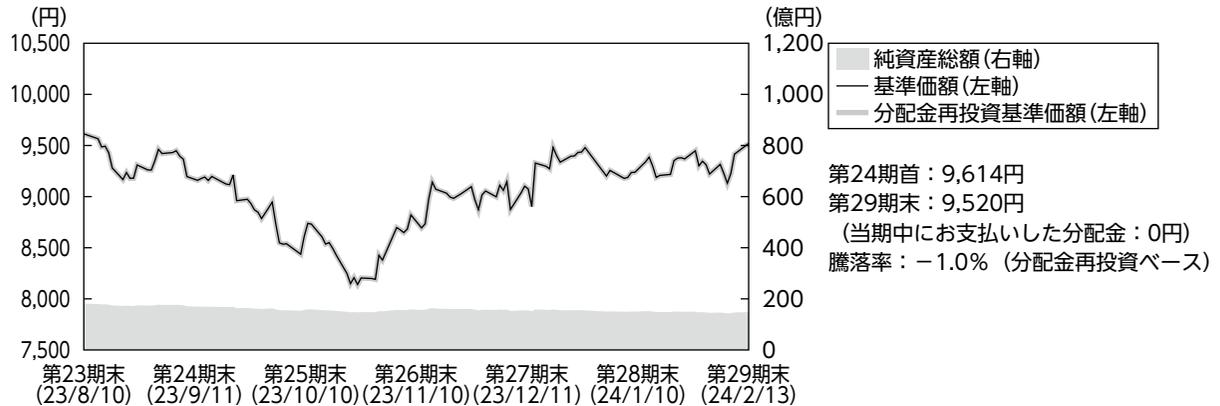
## ○GSグローバル環境リーダーズ 年2回決算コース

(以下、「年2回決算コース」といいます。)



## ○GSグローバル環境リーダーズ 毎月決算コース (分配条件提示型)

(以下、「毎月決算コース」といいます。)



(注1) 年2回決算コースおよび毎月決算コースの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

(注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注4) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額の基準価額を起点として指数化しています。

(注5) 騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

**■ 基準価額の主な変動要因**

○年2回決算コースの基準価額は、期首の9,697円から97円下落し、期末には9,600円となりました。

○毎月決算コースの基準価額は、期首の9,614円から94円下落し、期末には9,520円となりました。

(以下、2ファンドを総称して「本ファンド」といいます。)

**上昇要因**

投資銘柄のうち、日本の堀場製作所（情報技術）、米国のウエストロック（素材）、米国のトレイン・テクノロジーズ（資本財・サービス）などの株価が保有期間中に上昇したことが、基準価額の主な上昇要因となりました。

**下落要因**

投資銘柄のうち、米国のソーラーエッジテクノロジー（情報技術）、中国のCATL（資本財・サービス）、米国のダーリン・イングレディエント（生活必需品）などの株価が保有期間中に下落したことが、基準価額の主な下落要因となりました。

## ■ 1万口当たりの費用明細

○年2回決算コース

項目	当期		項目の概要
	2023年8月11日～2024年2月13日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	83円 (41)	0.913% (0.450)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(41)	(0.450)	
(受託会社)	( 1)	(0.014)	
その他費用 (保管費用)	1 ( 0)	0.007 (0.000)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用
(監査費用)	( 0)	(0.003)	
(その他)	( 0)	(0.004)	
合計	84	0.920	
期中の平均基準価額は9,122円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む。）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。但し、各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

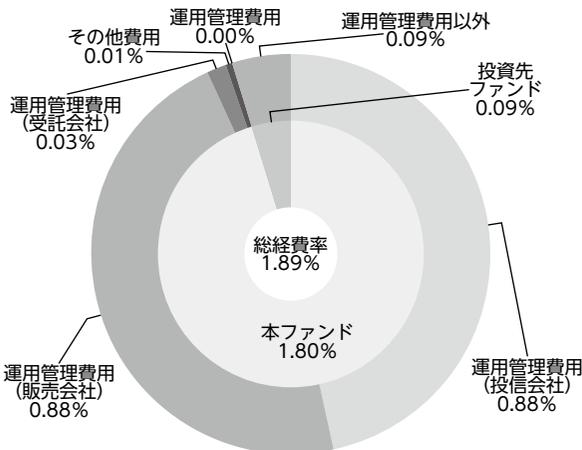
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

### (参考情報)

## ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.89%です。



総経費率 (①+②+③)	1.89%
①本ファンドの費用の比率	1.80%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.09%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、本ファンドが実質的に組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ■ 1万口当たりの費用明細

### ○ 毎月決算コース

項目	第24期～第29期 2023年8月11日～2024年2月13日		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	83円 (41)	0.913% (0.450)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各种書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(41)	(0.450)	
(受託会社)	( 1)	(0.014)	
その他費用 (保管費用)	1 ( 0)	0.010 (0.000)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 目論見書・運用報告書等の作成・印刷に係る費用、信託事務処理等に要するその他の諸費用
(監査費用)	( 0)	(0.005)	
(その他)	( 0)	(0.004)	
合計	84	0.923	
期中の平均基準価額は9,046円です。			

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む。)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。但し、各項目の費用は、本ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

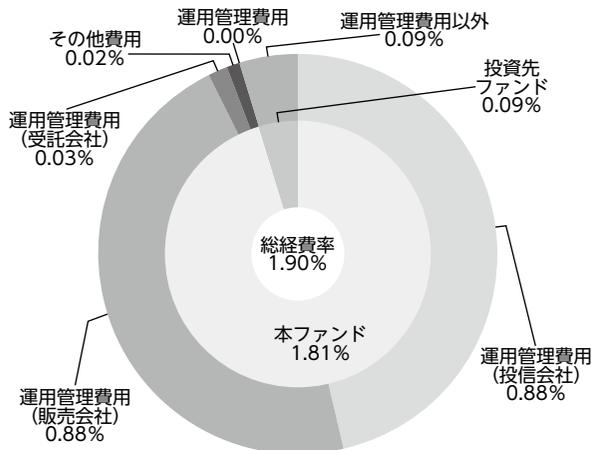
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

### (参考情報)

## ■ 総経費率

当作成対象期間の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.90%です。



総経費率 (①+②+③)	1.90%
①本ファンドの費用の比率	1.81%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.09%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 投資先ファンドとは、本ファンドが実質的に組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)です。

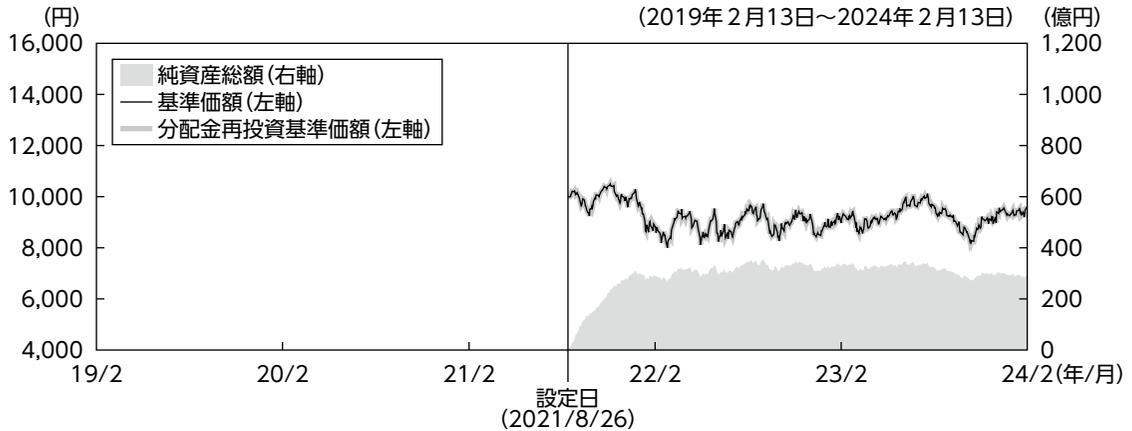
(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

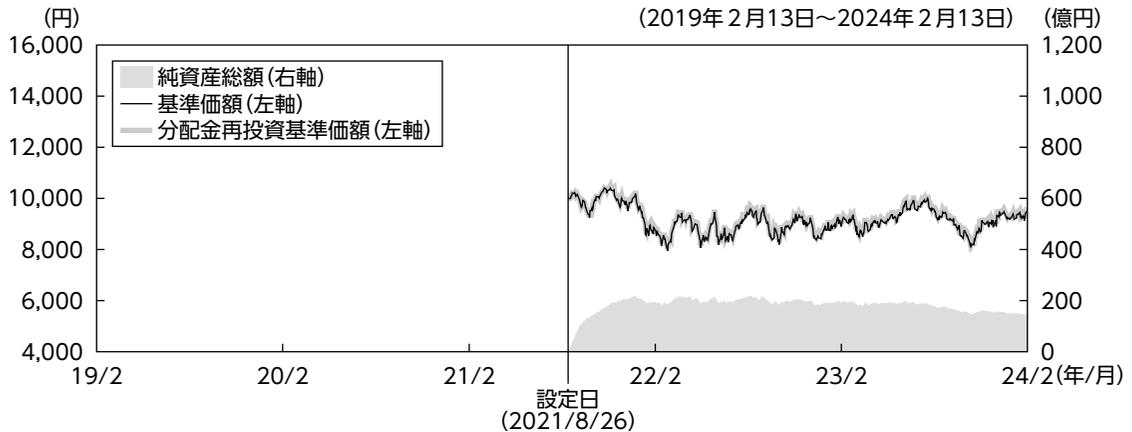
(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移について

### ○年2回決算コース



### ○毎月決算コース



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

(注3) 分配金再投資基準価額は、設定日(2021年8月26日)の基準価額を起点として指数化しています。

(注4) 年2回決算コースおよび毎月決算コースの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

## ■ 最近5年間の年間騰落率

### ○年2回決算コース

	2021/8/26 設定日	2022/2/10 決算日	2023/2/10 決算日	2024/2/13 決算日
基準価額（分配落）（円）	10,000	8,929	9,219	9,600
期間分配金合計（税引前）（円）	－	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	－	－10.7%	3.2%	4.1%
純資産総額（百万円）	400	29,249	33,504	29,235

### ○毎月決算コース

	2021/8/26 設定日	2022/2/10 決算日	2023/2/10 決算日	2024/2/13 決算日
基準価額（分配落）（円）	10,000	8,857	9,142	9,520
期間分配金合計（税引前）（円）	－	100	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	－	－10.6%	3.2%	4.1%
純資産総額（百万円）	400	19,628	19,647	14,817

（注1）騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2022年2月10日の騰落率は設定当初との比較です。小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

（注2）純資産総額の単位未満は切捨てで表示しています。

（注3）年2回決算コースおよび毎月決算コースの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

## ■ 投資環境について

### <世界株式市場>

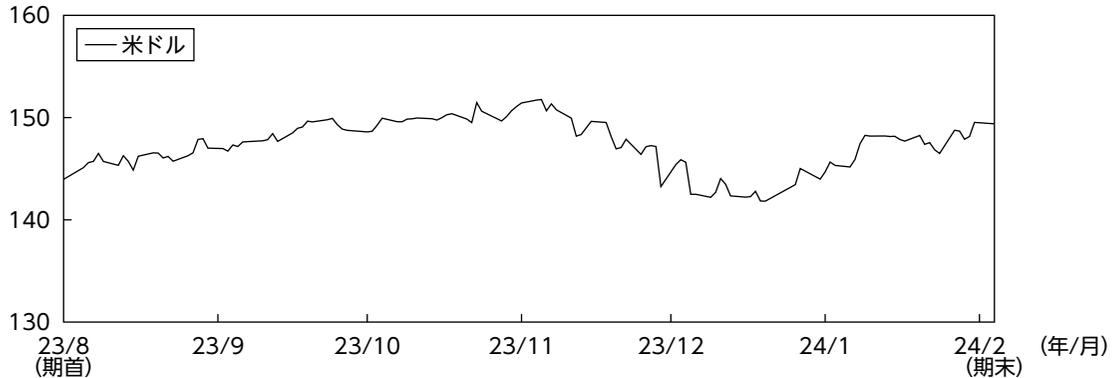
当期の世界株式市場は上昇しました。期前半では、2023年初来の株価上昇一服感が見られたことや、米長期金利の上昇、中国不動産市場に対する懸念の高まりなどが悪材料となり、世界株式市場は下落しました。特に、金利感応度の高いインフラ関連銘柄の下落が目立ちました。その後、米経済指標が弱含んだことなどから追加利上げ観測が後退し、また上昇を続けていた米長期金利にピークアウトの兆しが見えたことや、引き続き生成AI（人工知能）が市場の関心を集めハイテク株を中心に株価が反発したことなどを受けて、世界株式市場は上昇に転じました。期末にかけては、市場予想を上回る経済指標を受けて米利下げ期待が後退しつつあったものの、好調な決算発表などを背景に世界株式市場は底堅く推移しました。

### <外国為替市場>

当期の外国為替市場では、米ドルは円に対して上昇しました。

### ○為替レート（対円）の推移

(円/ドル)



出所：一般社団法人投資信託協会

### <短期金融市場>

当期において、米国T-Bill 1ヵ月は前期末の5.3%程度から前後に推移したものの、同水準で期末を迎えました。

## ■ ポートフォリオについて

### <本ファンド>

本ファンドは、ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオおよびゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンドを主要投資対象とし、期を通じてゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオを概ね高位に組入れることで、日本を含む世界の株式を実質的な主要投資対象とし、環境問題の解決に関連する主要なテーマに沿うと考えられ、かつサステナブル投資と判断される企業の株式に投資することにより、環境へのポジティブかつ測定可能なインパクトの創出、ならびに信託財産の長期的な成長をめざして運用を行いました。

### ・組入れファンドの当期中の騰落率（分配金再投資ベース）

ファンド名	騰落率 (米ドルベース)	騰落率 (円換算ベース)
ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ* <sup>1</sup>	-4.0%	-0.4%
ゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド* <sup>2</sup>	2.8%	6.7%

(注) 純資産価格の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

正式名称はそれぞれ以下の通りです。

- \* 1 ルクセンブルク籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V. - ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ I Oクラス
- \* 2 アイルランド籍外国投資証券（米ドル建て）ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー-ゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド X アキュムレーション・クラス

### <ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ>

当ポートフォリオでは、ユニバース構築の過程で環境テーマとの整合性を取るとともに、ボトムアップによる調査に基づき、ファンダメンタルズとバリュエーションの観点から投資妙味が期待される銘柄への投資を行います。当期間中、個別銘柄では、フランスのダッソー・システムズ（情報技術）や米国のベラルト（資本財・サービス）の新規投資、米国のダナハー（ヘルスケア）や日本のダイキン工業（資本財・サービス）の全売却などのトレードを実施しました。

### <ゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド>

主として米ドル建ての短期金融商品に分散投資することにより、元本と流動性を確保しつつ、米ドルベースでの最大限の収益を得ることを目標として運用を行いました。

## ■ベンチマークとの差異について

本ファンドの値動きと比較する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

## ■分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、年2回決算コースは、第5期の分配は行わないこととしました。毎月決算コース（分配条件提示型）は、第24期から第29期の分配は行わないこととしました。

収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

### <分配原資の内訳>

#### ○年2回決算コース

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項 目	第 5 期
	2023年8月11日～2024年2月13日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	92

#### ○毎月決算コース

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項 目	第24期	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
	2023年8月11日 ～2023年9月11日	2023年9月12日 ～2023年10月10日	2023年10月11日 ～2023年11月10日	2023年11月11日 ～2023年12月11日	2023年12月12日 ～2024年1月10日	2024年1月11日 ～2024年2月13日
当期分配金	—	—	—	—	—	—
(対基準価額比率)	—	—	—	—	—	—
当期の収益	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	350	350	350	350	474	474

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## 今後の運用方針について

### <本ファンド>

今後も引き続き、ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオおよびゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンドを主要投資対象とし、期を通じてゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオを高位に組入れることで、日本を含む世界の株式を実質的な主要投資対象とし、環境問題の解決に関連する主要なテーマに沿うと考えられ、かつサステナブル投資と判断される企業の株式に投資することにより、環境へのポジティブかつ測定可能なインパクトの創出、ならびに信託財産の長期的な成長をめざします。

### <ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ>

米国においては、景気の底堅さを背景に今なおインフレの見通しは不透明な状況にある一方で、これまで続いてきた利上げは最終局面にあります。今後はこれまでの金融引き締めの影響から経済成長の減速も懸念され、企業業績を慎重に見極めた上での銘柄選択が重要となる局面が継続するものと考えます。

ファンドにとっては、当期は各国での温室効果ガス排出量のネットゼロ目標やクリーン・エネルギーへの転換といった環境配慮を目的とした潮流が全体的な支えとなった一方で、高金利などを背景とした事業環境の悪化によって厳しい期間となりました。しかし、長期的にはグリーン化の潮流に変化はなく、世界各地で気候変動に対する問題意識が高まり、更なるコミットメントが求められるなかでは、当戦略が投資対象とする銘柄は引き続き恩恵が期待されるものと想定します。なお、ファンドの投資哲学は市場の短期的な変動によって変わることはなく、引き続き、環境テーマとの整合性をとりながら、ボトムアップによる調査に基づき、ファンダメンタルズとバリュエーションの観点から投資妙味が期待される銘柄への投資を行います。

### <ゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド>

今後も主として米ドル建ての短期金融市場証券に分散投資することにより、元本と流動性を確保しつつ、米ドルベースでの最大限の収益を得ることを目標として運用を行います。

(上記見通しは2024年2月13日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。)

## お知らせ

### 約款変更について

#### <年2回決算コース>

- ・2024年から実施されるNISA（少額投資非課税制度）の適用を明確にする目的で、指定投資信託証券における実質的なデリバティブ取引の利用目的を明確化しました。
- ・主要投資対象である投資信託証券の目論見書の開示が更新されたこと、また「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」に基づいた公募ESG投信の情報開示の拡充に鑑み、投資家の投資判断に資するため所要の変更を行いました。

#### <毎月決算コース>

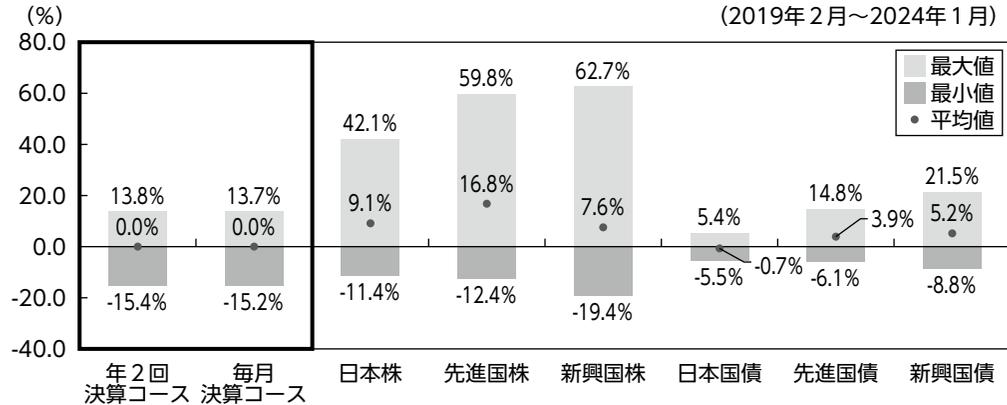
- ・指定投資信託証券における実質的なデリバティブ取引の利用目的を明確化しました。
- ・主要投資対象である投資信託証券の目論見書の開示が更新されたこと、また「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」に基づいた公募ESG投信の情報開示の拡充に鑑み、投資家の投資判断に資するため所要の変更を行いました。

## 本ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	原則として無期限
運用方針	主として、環境問題の解決に関連する主要なテーマに沿うと考えられ、かつサステナブル投資と判断される世界の企業の株式（日本を含む）を主要な投資対象とする投資信託証券に投資し、環境へのポジティブかつ測定可能なインパクトの創出、ならびに信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	
本ファンド	以下の指定投資信託証券を主要投資対象とします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルクセンブルク籍外国投資証券            ゴールドマン・サックス・ファンズ S. I. C. A. V.           <ul style="list-style-type: none"> <li>①ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ</li> </ul> </li> <li>・アイルランド籍外国投資証券            ゴールドマン・サックス・ファンズ・ピーエルシー           <ul style="list-style-type: none"> <li>②ゴールドマン・サックス US \$トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド</li> </ul> </li> </ul>
指定投資信託証券①	日本を含む世界の株式および株式関連証券
指定投資信託証券②	主に米ドル建ての短期金融商品、決済機関への預金およびリバース・レポ取引などの金融市場証券
運用方法・組入制限	①外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジは行いません。 ②投資信託証券への投資は、高位に維持することを基本とします。 ③株式への直接投資は行いません。
分配方針	原則として毎計算期末（年2回決算コースは毎年2月10日および8月10日、毎月決算コースは毎月10日。休業日の場合は翌営業日。）に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益（評価損益を含みます。）等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。なお、毎月決算コースは毎計算期末の前営業日の基準価額に応じて分配を行うことをめざします。

## (参考情報)

## ■ 本ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2019年2月から2024年1月の5年間における1年騰落率の平均値・最大値・最小値を、本ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。ただし、1年騰落率は各月末の直近1年間の騰落率であるため、設定日(2021年8月26日)から1年後の2022年8月以降のデータを表示しており、過去5年間のデータではありません。

## ○各資産クラスの指数

日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株：MSCI コクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース)

□東証株価指数(TOPIX)の指数値および東証株価指数(TOPIX)に係る商標または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社の知的財産です。□MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCIインクに帰属します。MSCIおよびMSCIの情報の編集、計算、および作成に関与するその他の者(以下総称して「MSCI当事者」といいます)は、MSCIの情報について一切の保証(独創性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性を含みますが、これらに限定されません)を明示的に排除します。MSCI、その関連会社およびMSCI当事者は、いかなる場合においても、直接損害、間接損害、特別損害、付随的損害、懲罰損害、派生的損害(逸失利益を含みます)およびその他一切の損害についても責任を負いません。MSCIの書面による明示的な同意がない限り、MSCIの情報を配布または流布してはならないものとします。□NOMURA-BPI国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。□FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。□JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバルに関する著作権は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

・海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

・全ての資産クラスが本ファンドの投資対象とは限りません。

・本ファンドの騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

・代表的な資産クラスの騰落率は当期末の直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、本ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

## 本ファンドのデータ

### ■ 本ファンドの組入資産の内容 (2024年2月13日現在)

<年2回決算コース>

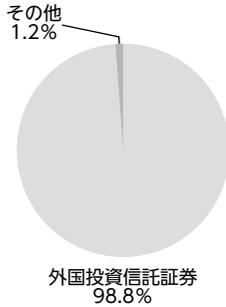
○組入上位ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

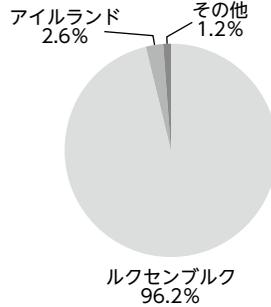
ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・グローバル・エンパイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ	96.2%
ゴールドマン・サックス US \$ トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド	2.6%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

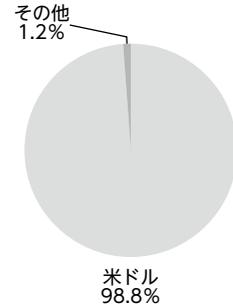
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 上記の比率は全て年2回決算コースの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。  
 (注2) 国別配分は、発行国もしくは投資国を表示しています。国・地域別による配分です。  
 (注3) 通貨別配分は、資産別配分における発行通貨にて表示しています。

<毎月決算コース>

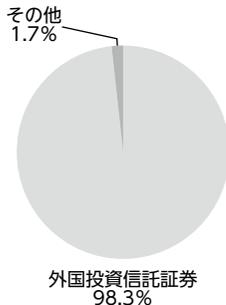
○組入上位ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

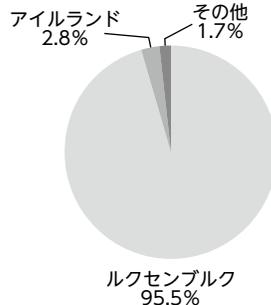
ファンド名	比率
ゴールドマン・サックス・グローバル・エンパイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ	95.5%
ゴールドマン・サックス US \$ トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド	2.8%

(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

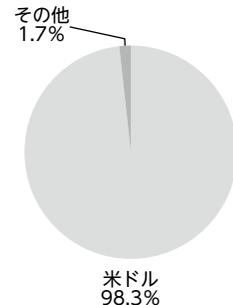
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 上記の比率は全て毎月決算コースの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。  
 (注2) 国別配分は、発行国もしくは投資国を表示しています。国・地域別による配分です。  
 (注3) 通貨別配分は、資産別配分における発行通貨にて表示しています。

■ 純資産等

○年2回決算コース

項目	第5期末
	2024年2月13日
純資産総額	29,235,556,346円
受益権総口数	30,454,534,894口
1万口当たり基準価額	9,600円

(注) 期首元本額は33,583,956,311円、当作成期間中において、追加設定元本額は1,203,388,295円、同解約元本額は4,332,809,712円です。

○毎月決算コース

項目	第24期末	第25期末	第26期末	第27期末	第28期末	第29期末
	2023年9月11日	2023年10月10日	2023年11月10日	2023年12月11日	2024年1月10日	2024年2月13日
純資産総額	16,950,482,611円	15,340,695,097円	15,882,106,022円	15,464,379,502円	14,976,808,829円	14,817,470,582円
受益権総口数	18,507,448,764口	18,181,966,394口	18,005,503,649口	17,111,357,653口	16,299,914,878口	15,564,989,358口
1万口当たり基準価額	9,159円	8,437円	8,821円	9,037円	9,188円	9,520円

(注) 当作成期首元本額は18,829,086,782円、当作成期間（第24期～第29期）中において、追加設定元本額は136,347,716円、同解約元本額は3,400,445,140円です。

## 組入上位ファンドの概要

<ゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオ> (2023年5月31日現在)

\* 2024年2月13日時点で入手可能な直近までの状況をご報告申し上げます。

### ○純資産価格の推移について (2022年12月1日~2023年5月31日)



\* I Oクラスの純資産価格

### ○費用明細 (2023年5月31日に終了した期間) (単位:米ドル)

費用	
当座借越支払利息	152
投資顧問報酬	2,587,319
保管費用	72,777
管理事務代行報酬	111,693
販売報酬およびサービシング報酬	277,898
名義書換事務代行報酬	39,832
年次税	101,543
監査報酬	4,763
管理会社報酬	80,305
取締役報酬	3,438
弁護士報酬	8,728
保険費用	5,658
印刷費用	17,330
出版費用	2,281
税務報告報酬	11,985
支払代理人報酬	9,509
規制報告報酬	17,264
その他費用	27,514
	<u>3,379,989</u>
費用合計	<u>3,379,989</u>

(注) 費用明細は1万口当たりの情報の入手が困難であるため、当外国投資信託証券の全てのクラスにかかった金額を表示しております。

### ○組入上位10銘柄

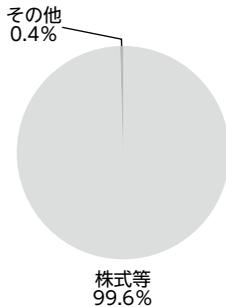
銘柄	国・地域	比率
1 Iberdrola SA	スペイン	3.9%
2 Enel SpA	イタリア	3.9%
3 Ecolab, Inc.	米国	3.8%
4 DSM-Firmenich AG	スイス	3.7%
5 NextEra Energy, Inc.	米国	3.6%
6 Waste Management, Inc.	米国	3.4%

(組入銘柄数: 53銘柄)

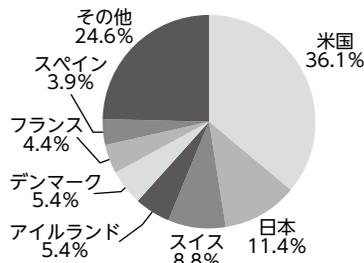
銘柄	国・地域	比率
7 Schneider Electric SE	フランス	3.3%
8 Danaher Corp.	米国	3.3%
9 Daikin Industries Ltd.	日本	3.3%
10 Infineon Technologies AG	ドイツ	3.2%

(注) 組入比率は当外国投資信託証券の全てのクラスを合算した純資産額に対する割合です。

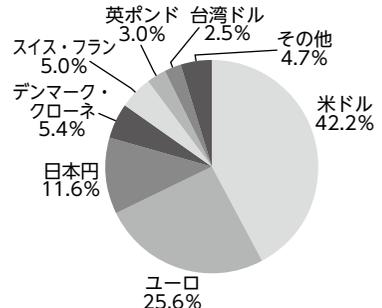
### ○資産別配分



### ○国別配分



### ○通貨別配分



(注1) 配分は当外国投資信託証券の全てのクラスを合算した純資産額に対する比率です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注2) 国別配分は、国・地域別による配分です。

(注3) キャッシュ部分については、「その他」に含めています。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

## ご参考 ファンドの目的・特色

### 環境問題のソリューション・プロバイダーへ投資

持続可能な社会の実現に向けた社会全体の意識が高まり、環境問題に対する取り組みがより一層強く求められています。消費行動や投資行動の変化を受け、環境問題の解決に貢献する製品やサービスを提供する「ソリューション・プロバイダー」は、今後大きく成長していくことが見込まれます。

本ファンドでは、環境問題を解決するにあたって重要な投資テーマを特定し、環境問題のソリューション・プロバイダーへの投資を行うことで長期的なリターンをめざします。

### 投資テーマとソリューション・プロバイダー



環境問題の解決に貢献する製品やサービスを提供する  
ソリューション・プロバイダーの成長

環境に配慮した製品やサービスが社会に普及、拡大

ファンドへの投資を通じて間接的に環境問題の解決に貢献

上記は本書作成日時時点の投資テーマであり、これらに限定されるものではありません。また、将来変更される可能性があります。

## ご参考

## 投資テーマ別 ソリューション・プロバイダー銘柄事例(組入上位10銘柄)

**テーマ：脱炭素社会**

- ・ **イベルドローラ**は風力発電、太陽光発電、水力発電、スマートグリッド、エネルギー貯蔵、グリーン水素など再生可能エネルギーに特化し、脱炭素化を推進するスペインの電力会社。電気自動車の充電インフラの構築に積極的な設備投資を行うほか、スマート配電ネットワークの構築によって、効率的でクリーンかつ安全なエネルギーモデルの実現を推進しています。
- ・ **エネル**は世界中で幅広く再生可能エネルギー事業（風力、太陽、水力、地熱）を展開するイタリアの電力企業。従来の電力事業に加えて、電気自動車の充電ポイントやバッテリーの保管ネットワークを構築するなどエネルギーモデルの転換を促進するソリューションを提供しています。
- ・ **ネクステラ・エナジー**は風力、太陽光、天然ガスなどによる発電を手掛ける持続可能なエネルギーの発電・販売会社。傘下に米国フロリダ州の太陽光発電最大手企業を持ち、蓄電分野においても業界をリードし、イノベーションを推進しています。
- ・ **シュナイダーエレクトリック**は、世界的な電気機器・産業機器メーカー。IoTソリューションを通して顧客のエネルギーマネジメントとオートメーションを支援し、二酸化炭素排出量の削減に貢献します。持続可能性と効率性を実現するデジタルパートナーになることを会社のミッションとし、顧客のデジタルトランスフォーメーションを推進します。
- ・ **ダイキン工業**は日本の空調機メーカー。地球温暖化係数が低い新冷房R32を採用したルームエアコンの、特に新興国における普及などを通して、環境負荷削減を目指しています。
- ・ **インフィニオン・テクノロジーズ**はドイツの半導体メーカー。電気自動車においては電力損失を軽減するなど、顧客の最終製品のパフォーマンスとエネルギー効率を高めるソリューションを提供することで、自動車や産業用、コンピューティングなどのチャンネルから排出される二酸化炭素の削減に寄与しています。

**テーマ：持続可能な消費**

- ・エコラボは世界的なサステナビリティリーダーとして、水、衛生、感染予防のソリューションとサービスを手掛ける企業。水やエネルギーなど資源消費の抑制や、温室効果ガスと廃棄物排出の削減を推進しています。
- ・DSMフェルメニッヒはライフサイエンス、バイオテクノロジー、食品、ヘルスケア原料を手掛ける化学企業。牛の体調や、飼料の消化・吸収等を阻害することなく、牛のゲップを削減する酵素を開発し、温室効果ガスであるメタンガスを削減するプロジェクト"Clean Cow"を実施しています。
- ・ダナハーはライフサイエンスや環境ソリューションなどの事業を展開する企業。水に含まれる化学物質や微生物を検出・測定する精密機器や浄化技術を通じたソリューションなどを提供しています。

**テーマ：循環経済**

- ・ウェイト・マネジメントは北米最大級の廃棄物処理業者。日常生活に必要不可欠となる廃棄物処理業を営むとともに、埋立地で発生するガスを活用して再生可能エネルギーを供給するなど、廃棄物の資源化を事業として成り立たせています。

上記は投資先ファンドのゴールドマン・サックス・グローバル・エンバイロメンタル・インパクト・エクイティ・ポートフォリオの2023年5月31日現在の組入上位銘柄に基づく記載です。

委託会社のホームページではファンドの直近の情報がご覧いただけます。(www.gsam.co.jp 二次元バーコードからもアクセス可能です)。

**【インパクトの達成状況】**

本ファンドの主要な組入れファンドは、5つの重要テーマ（1. クリーン・エネルギー、2. 資源効率、3. 持続可能な消費、4. 循環経済、5. 持続可能な水資源）への投資を通じて投資家に長期的に魅力的なリターンをもたらすと同時に、環境サステナビリティ促進に寄与するソリューションを提供する企業に投資することで環境にプラスのインパクトを与えることを目指しています。

インパクトの達成状況については、委託会社のホームページをご参照ください。

([https://www.gsam.com/content/dam/gsam/pdfs/international/ja/market\\_insights/impact\\_report.pdf?sc\\_cid=pros](https://www.gsam.com/content/dam/gsam/pdfs/international/ja/market_insights/impact_report.pdf?sc_cid=pros))

**【ステewardシップ方針に沿って実施した行動】**

ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントのステewardシップ活動に関する基本方針に沿って実施した行動の詳細については、委託会社のホームページをご参照ください。

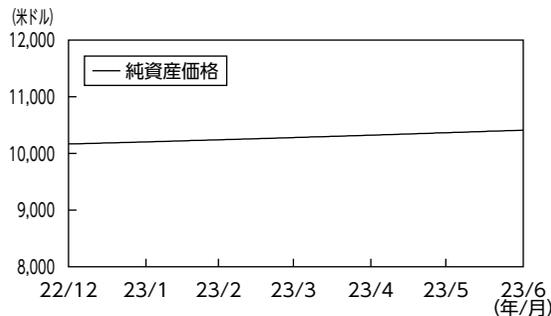
([https://www.gsam.com/content/dam/gsam/pdfs/international/ja/our\\_firm/stewardship\\_report.pdf?sc\\_cid=sr](https://www.gsam.com/content/dam/gsam/pdfs/international/ja/our_firm/stewardship_report.pdf?sc_cid=sr))



<ゴールドマン・サックス US \$ トレジャリー・リキッド・リザーブズ・ファンド> (2023年6月30日現在)

\* 2024年2月13日時点で入手可能な直近までの状況をご報告申し上げます。

○純資産価格の推移について (2023年1月1日~2023年6月30日)



\* X アキュムレーション・クラスの純資産価格

○費用明細 (2023年6月30日に終了した期間) (単位: 米ドル)

費用	
投資顧問報酬	54,597,572
管理会社報酬	2,945,024
管理事務代行報酬	918,265
保管費用	1,686,480
販売報酬	1,070,560
名義書換事務代行報酬	180,964
監査報酬	8,151
取締役報酬	8,199
弁護士報酬	27,372
保険費用	105,318
印刷費用	16,472
その他費用	251,830
費用合計	61,816,207
投資顧問報酬調整額	(5,704,939)
運用費用合計	56,111,268

(注) 費用明細は1万口当たりの情報の入手が困難であるため、当外国投資信託証券の全てのクラスにかかった金額を表示しております。

○組入上位10銘柄

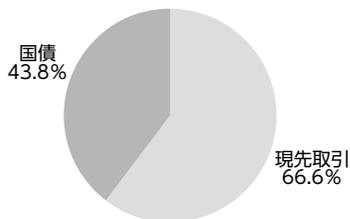
順位	銘柄	種別	比率
1	United States Treasury Bill	国債	8.1%
2	United States Treasury Bill	国債	7.3%
3	United States Treasury Floating Rate Note	国債	7.2%
4	Sumitomo Mitsui Banking Corp Repo	現先取引	5.8%
5	United States Treasury Bill	国債	5.3%
6	RBC Dominion Securities Inc Repo	現先取引	5.2%

(組入銘柄数: 85銘柄)

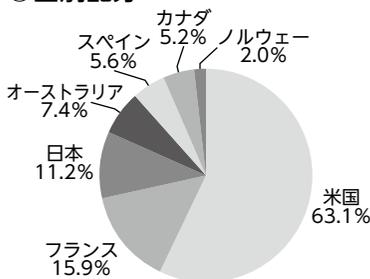
順位	銘柄	種別	比率
7	BNP Paribas Repo	現先取引	4.5%
8	Citigroup Global Markets Inc Repo	現先取引	4.5%
9	BofA Securities Repo	現先取引	4.1%
10	United States Treasury Bill	国債	4.1%

(注) 組入比率は当外国投資信託証券の全てのクラスを合算した純資産額に対する割合です。

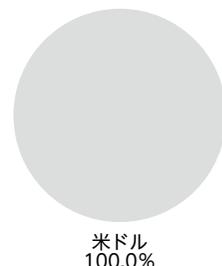
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 配分は当外国投資信託証券の全てのクラスを合算した純資産額に対する比率です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注2) 国別配分は、国・地域別による配分です。

(注3) キャッシュ部分については、「その他」に含めています。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。